



樞密院議長伊藤伯著

帝國憲法義解
皇室典範

國家學會刊行





竊惟天子之立典教日

履而為造則在社稷風俗之

為軌而為治則在憲法之

國家之大經也

各家を以て別を立て義精確
抑ふし曰星の外に又深奥の
積するをきふ此の以て居る
遠く能一尔
重代に由るもの多奈也

竊下僭辱と俱に研磨考
竊^{さし}の余^ま研と筆記と
為へ行^まる^る之^の後^に寫^し名
つけとる^る義^を解^しと^り禮^をと^り大
其の証^を疏^をを^し為^す不^れ片

所由者の一に充てむべし哉
美しきのくみえを共卒院
通じく類を持し義を初
するふめしては之を後令
印むるあ架るとも惜みの

敬下公府之儀也

明治二十二年四月

伯爵伊藤博文謹誌



